まき

発行所
西蒲原郡
巻町公民館
編集人
保刈郡司
印刷所
北洋印刷株式会社
（西蒲．巻町．電話204番）

ひそかな私の願い

罰があたろうか

こんなことを言い出したら誰かに叱られそうだし、叱られるどころか『罰があたる』かも知れない。昔から神様や佛様に失礼なことをすると『罰があたる』と言う。その神様のことに觸れるのだから、もしかしたら罰でもあたるかとビクビクしながらも、只私の夢を描くだけで、別段他意があるわけでないのだから罰をあてることだけは御免蒙りたい。

神國と信じ、神の加護によつて毛唐などには絶對に侵されないと信じていた日本が戰爭に敗け、そして六年八ケ月のながい間敵に廻した国の人達に神聖だと信じた國土を侵されしかもその人達にすがつて辛じて生きながらえた恰巧の日本の狀態からしたら、何か新しい構想で再建を考えなければ永遠に属國の姿で世界の下積みになつてしまいそうである。

講和発効の日を知らない、と言うより知ろうとも思わない程世の中のことに無関心の大人、このおとなでは日本の再建は難しいのでなかろうか。戰爭中は軍艦マーチで大本営発表を無批判で受入れ、敗戰後はインフレの波にうかれ、困つてくると進駐軍に頼る、そうしたことが骨のずいまでしみ込んだ大人では言いかえれば病既に膏肓に入つた病人ではどうにもならないので、日本の再建は子供以外にないのである。

『子は三界の首かせ』いろは歌留多の文句どおり、せち辛い世の中で子供を育てるのは生活苦の一つでもあろうが、子は萬代の寶である。身や家の寶というより『子は國の寶』である。

此の大事な国の寶を案外軽くみているのでなかろうか。只子供を甘やかす母の盲愛だけでは子供は救われるとは思われない。あれが喰べたい、見たい、欲しいだけのものを満たしてやつても結局それはそれだけのことであつて子供が描く小さな世界の一部にしか過ぎない。よく学ぶ反面、誰にも拘束されないのびのびとした天地を欲しているのであるまいか。欲しないとしたらそうしたものを與えてやることが子供への眞の愛であり、国の寶を遇する大人の勤めであるまいか。

そこで漸く『罰があたる』かと思う本論に入るので、結論を先に申上げると巻町の神社を全部神明さまへ合祀して、その境内を子供の遊び場に開放したらどうか、ということになるので最初にも断つたとおり、これは私の夢である。夢で叱られたり、罰があたつても眼が覺めたらとの氣易さもあるから卒直に申上げたい。

近頃目立つて殖えた自動車、オートバイ、自轉車などがひつきりなしに往來する道路で球投げ、縄とびその他いろんな遊びに戯れる子供を默つてみている親達、適当の遊び場がないからとの断めであろうが、そんな断めは親が子に對する愛であろうか。勿論遊び場だけで子供が満足に育つとは言わないが、少なくものびのびとしかも天眞らんまんに育つには健全な遊びが唯一の條件になるのであるまいか。ブランコ、シーソーもつとぜいたくな木馬、飛行塔なんでもよい無心に樂しむ子供の姿こそは正に天國である。すくすく育つた子供達によつて日本の再建が出來るとしたら感情や、理窟や、面目などはほんの一時的な事に過ぎないし、多少の犠牲ですむ事だつたら一日も早く実現させたいものである。

神や佛を軽んじろ、偶像崇拜は止めろと言うのではない。下の宮愛宕さま、赤サビ、堀山のお宮を神明さまに合祀してもお參りも出來るし、信仰も今までと変りなく出来る筈だし、その跡が日本再建に一番大事な子供がすくすく伸びる樂園となつたら神様も合祀の窮屈さなど忘れて下さると信じている。

敗れた國の苦痛は大人だけが味うことにして、子供は無心のままで伸ばしてやりたいものである。その爲に一人や二人が罰あたりになつても、そんなことは問題であるまい。神社で子供の遊び場をつくりたい！これは私だけの夢であろうか

（子供の日こんな事を思う）　小林生

町議会だより

四月六日
定例会
出席二十二名

一、巻町外十ヶ村國民健康保険直営診療所設置について
診療所、木造平屋建一一三坪を建築することとした

二、特別会計設定について
巻町外十ヶ村健康保険直営診療所の設置並事業運営のため特別会計を設定することとした

三、巻町外十ヶ村國民健康保険直営診療所特別会計、歳入歳出予算を議決した

四月十四日
臨時会
出席二十一名

一、巻町税賦課徴收條例の一部を改定について議決した

二、町税の減免申請について審議議決した

三、保険税（料）並に一部負担金減免申請について審議議決した

四、巻町監査委員内藤豊作氏辞任に伴う後任について今井九郎次氏を選任した

巻町公民館を運営する人々

町の茶の間、公民館の運営について、いろいろ御相談相手になつてくれる公民館運営審議会の委員が決りました

委員の任期は昭和二十七年四月より昭和二十九年三月迄であります

社会教育法第三十條
第一項第一号委員
笠原俊弐　片桐薫

同條第一項第二号委員
笛木甚一郎　本間孝一　幸田久作　石塚まつよ　佐藤吉之助　倉品千代子

同條第一項第三号委員
小林雄以　河治忠雄　渡辺嘉雄　土田藤孫子　小林十四三　高田弥雄司　金子みつ　久保田とし　中野よし

菱の実

▼先日西蒲原郡内各町村の公職に在る最高メンバー一九〇名に対し『産児制限の可否』を問うたところ制限すべしと回答した者一四四名、その必要なしとする者三四名他の一二名は分らないと答えている。

▼敗戰日本が人口過剰に苦しみ拔いていることは常識となつているが、國家的な問題を別として巻町だけの現狀を見ても要保護世帯の八〇パーセントは子供がいる爲めに保護しなければならない狀態である。

▼貧乏人の子沢山と昔から言われたが今は逆に子沢山が貧乏の最大の原因をなしていることは事実である。家庭の收入が子供の数に比例しないで支出のみ増大するからである。どこかかる判りきつた事実が子供の生まれる場合に殆ど考えられていない。

▼多子世帯で両親は仂けど仂けど窮乏の泥沼に沈んで行き子供は生きているだけがヤットのようなミジメな家が如何に多くなりつつあることか。そこには人生の幸福などいうものの一かけらも見出せない。かくして町も村も不潔と病気と無知と犯罪が殖えて行く。

▼出生が性欲の不可避現象だと考えることは人間生活を獣類の世界に突き落すことである賢い人達は性欲と分娩とを別個に操作している。わからぬ人は醫者に相談すべしだ。

▼児童福祉週間が來た子供の日も母の日も結構だが現在の日本には子供の多い限り子供の福祉も母の幸福も絶望の外はないことを知らねばならない。

公民館雑感
御挨拶に代えて

齋藤順作

今度またつゞけて公民館をやるようにいいつけられました。

わたくしとしましてはもう何年もこんなことをやってますので少々つかれましたし、それよりも、いつまでも同じい人がやっているのは、マンネリズムにおちいるおそれが充分にありますので、これを機會にぜひ他の方からやって頂いた方がよいと思ったのですが……。

おかげさまで、公民館も專任の職員をおけましたし、こんな立派な建物も貸って頂けましたし、他の町村からはずいぶんうらやまれていますそれに町民運動会はもう十何回ですし、文化まつりも五回、敬老會成人式も三四回、去年からの藝能まつりも今年もやりましたし、いろいろのスポーツの大會なども、実際目まぐるしいほど開かれていますので、華々しさという点においては、どこにも大したひけをとらないと思っています。

『卷はいい、ノ〈』という言葉は郡内の町村の婦人の方や青年の方からきかれる言葉です。

しかしこうした華々しさということはいったいなんでありましようか。

それは例えれば商店の宣傳や店かざりのようなものではないでしょうか。

店頭にはきれいなポスターやビラや造花が下り、スピーカーはおやん〈なっている。しかし一歩店内へ入ると余り品物はなく、あっても手頃な氣に入ったものは見あたらない。

――日本の今の『文化』がそんなものであるように卷の公民館もそんな感じがするのです。

その證據にはまだ公民館がどこにあるか分らない方が少くとも二百人に一人はおり、町の人たちの半分以上は来ておりません。（まき前月号）

ずいぶん氣をつけているつもりですが、公民館へ行ってもボスばかりいるので……という言葉を頂いたこともあります。

スポーツの分野にしても練習日だというので行ってはみたがみんな上手な人ばかりなので、仲間に入ることも出来ず、そしてまた誘われることもないまま、面白そうにやっているのをさびしくぼんやり眺めて歸って来たというような方もきっとおられると思います。『館報』に書いて頂ける方もだんだん決った人だけになってきそうですし、文庫でもそうしたにおいがすること存じます。

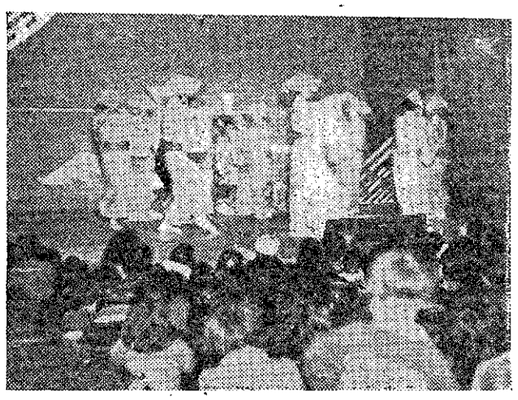
公民館予算七十万。みんなこれ町の人たちの税金なのだ。それを一部の人のためにのみ使ってはならない。より多くの人たちから利用して頂く。よろこんで頂けるようにしなくてはならない。そしてそうするためには、どうしたら、なにをしたらいいのか、――会議の度毎に話しあい、ないが公民館のボスとなってわが家のように気易く自由に出入りし、そしてわがことのようにいろいろ考え指揮して頂ける日の一日も早く来るように願い、そのためにつとめようと思っています。

御指導御叱正のほどお願いします。

残念ながらまだ『ボスばかりいる』という有様になりがちなのですすべてのこゝそうなのでしょうか。初めはまず存在を知ってもらい。次は理解してもらい。そして最後はその仕事に參加してもろうことだと思います。

卷の場合、第一の段階はまず〈すんでこれから第二、第三の段階に入るべき時期だと考えられます。

この言うは易く行うは実にむずかしい時期に再びこの仕事にたずさわる身の不敏ですが、町の方々の御指導御協力を得て最後の理想的な姿に一日も早くすることが出来るようにと念じています。そして町の人々の一人〈


盛況の春の藝能祭（卷民謡會の相川香頭）

何時でも加入出來る卷信用組合

卷信用組合は町民各位の絶大なる御協力によつていよいよ来る五月二十一日創立總会開催の運びになりましたが今後の加入については何時でも受付けいたしますから加入御希望の方は遠慮なく同組合に御申込下さい。

希望

中野よし

予防したあとの苗代は床面にたっぷりと水をたたえて、心憎い迄にすっきり澄んでいる。

『苗半作』といわれるだけに播種後の苗代の管理の責任は重い。水のかかるを待つ間にちっと靜かに何か考えごとをするのも又樂しいものである。

早乙女や子の泣く方に植えてゆく

これからの農繁期ではよく見られる風景の一つである。実に農家の婦人の明け暮れの殆ども、男達と變らぬ重労働そのものである。従って婦人本来の使命という べき育兒や家事の問題に專心する事が許されぬのが実情である農村の生活が他に比べて豊かでない事は爭えぬとして、それと経済上の色々の欠陥が原因しているのは勿論であると同時に『農業経営』が合理化されていない』といわれると思う。

忙しい時には猫の手も借りたい位で、又反對にひまの時はひまという工合で、農業以外の生産では一寸想像出来ぬ経営形態である。

このような昔ながらの非能率的の経営や生活をくり返していては農村の繁栄とか文化の向上發展等はおよそ縁遠いものではなかろうか働いてはならない。

『農業経営の合理化』即ち土地改良交換分合及び機械化等であるが、これらの問題も結局は経済的の裏付が必要とされ、春耕では絶對的條件を具備してあれど十五、六万円とあっては一寸手も足も出ぬというところ。不況の農村救済の一方法として今少し安く購入出来るような施策が政府でなかろうか。

時間厳守で明るい集会

まだこんなに遅れる（四月の集会狀況）

一、藝能祭打合会　四月二日　遅れた時間　二〇分　予定時間　七時三〇分―七時五〇分　開会

二、婦人会役員会　四月十一日　三〇分　七時三〇分―八時

三、藝能祭　四月十九日　三〇分　六時〇分―六時三〇分

四、史学会　四月廿三日　二〇分　七時三〇分―七時五〇分

「團体から」の「おたより」

◇公民館

四月十日からの婦人週間中の十四日、家庭裁判所調停委員の村島さんより来ていただき講演会を開催、与えられた女の權利の裏に義務と責任のあることを深く戒しめられ、參会者八十余名に深い感銘を与えた。十八、九、二十日と三日間に亘り開催された防犯展覽会は変った寫眞の展示もあった故か連日やんやと押しかけ賑った。

期待された第二回春の藝能祭も參加團体の御協力により、予想外の成果をおさめて終了した。春の藝能祭、秋の文化祭とその都度出演者の演技の向上が目立ち、好評を博した。

この藝能祭の舞台装置を担当された中学校の鈴木先生、役場の高橋さん、少い経費より百%の舞台効果を表して下さった御両人の努力に對して感謝いたしております。

今月母の日に新潟大学の栗原先生にお願いして何かお話を伺う。また前からの計画、自轉車ハイキングを十八日に卷、弥彦、寺泊、大河津、吉田、卷のコースでやってみたいと考えている。二十四、五日に切手、朝日新聞社提供の寫眞卷町章制定に際して広く募集した時の応募作品展を開催する。

◇婦人会

四月十日よりの婦人週間を有意義にと十四日午後一時より公民館で家庭裁判調定委員村島喜代子氏を新潟から招き講演会を開く『新民法下の婦人の在り方』について、新民法上の男女同權、家庭に於ける妻、嫁の權利等について厳めしいお話の中にユーモアを混えて家族制度の良さも日本人として忘れてはいけない。与えられた女の權利の裏には義務と責任のあることを訓戒された。講演一時間半終って座談会を開き、法と權利について泌み泌みとしたお話は參会者八十名によき想出を残した。

よい子に　緑を…

可愛い子供に緑をと、この程卷町九區小林治作さんよりいただいた『プラタナス』の木が保育所に植込まれ、町のよい子達から大變感謝されている。

町でも更によい子たちのために植林を計画中である。

尚四月は緑樹週間を意味して中学校の門前にしるしばかりだが玉椿の苗とツツジを植えさしていただく。生徒達の健かに延びると共に一日も早く緑濃き生垣にならんことを祈っている。

三月末日から四月初めにかけて皆様から古新聞、古雜誌を御寄附願つたのでしたが合計壹千九百五拾弐円也、一まとめにしたため、各區毎の金額が御報告出来ぬことを残念に存じますが御許し下さい。

この金に加えて『主婦と生活社』よりレクリエーション代として五千円戴いたので三千円を苗木購入に二千円は藝能祭の際に民謡研究会へ御祝儀としてお上げしました。これは過日の新大寄附演藝会に御活躍下さった感謝の意味をも含めて上げたもので右御報告申上げます。

五月十一日『母の日のつどい』を午後一時より公民館で新大教授栗原たま子氏を長岡から迎えて聞く『民主主義と家庭婦人』について愚痴を云わぬ婦人になれ、美しい聲で美しい言葉で話し内容で美しい言葉で話しの出来る婦人になれ家中の者が気持ちよく仕事の出来る状態においてやれる婦人になれとの御講演一時間半、最後に結婚改善にふれて盛会裡に散会する。

卷町婦人会もこしばらく教養方面に力を注いでまいりが次の教養講座に御期待下さると共に若葉にかおる五月です。ピクニックに散策に想を遠く野づらにはせて樂しい一日を過すことも計画の中に入れ、たいものですが皆様の御協力をお待ちします。

春の野に

（スポーツだより）

櫻の花も散り、野も山も新緑に輝き、風薫る爽快なシーズンを迎えて、卷野球連盟が主催する第一回卷町職域対抗野球大会は去る四月二十九日及五月三日に亘り華々しく開催された。

何しろ本大会の參加八チーム共に優勝への野心満々互格の実力をもつて卷中球場に相まみえ勝んかなの意氣と時折見せる美技は今年度の卷町野球史の一頁を飾るにふさわしいものがあつた。

戰績は次の通り

第一回戰

地方事務所	17A―6	税務署	
北洋印刷	8A―5	農協郡支部	
卷驛	6―5	保健所	
丸善不戰勝		役場	
丸善準決勝	6―2	北洋印刷	
地方事務所	7―1	卷驛	
丸善	8―1	地方事務所	

決勝

◇近郷少年卓球選手權大会

五月五日　卷中コート

男子の部

一位　卷　大久保金重
二位　卷　河治　冬樹
三位　米納津　中條　守
三位　卷　安尻　正

女子の部

一位　升潟　小林　和子
二位　升潟　久朗津ミヨ
三位　燕　高山　文子
三位　燕　玉橋　奈三

◇近郷卓球選手權大会

五月五日　卷中コート

一般（A級）

一位　新潟　水島　史朗
二位　新潟　知念　悌郎
三位　卷　玉木昭三郎
三位　新潟　石川正佐久

一般（B級）

一位　卷　倉品　省三
二位　白根　皆澤　勝司
三位　白根　鈴木　秀定
三位　白根　猪股　勳

◇たゆまざる練習!!

籠球部

新緑のこの絶好のシーズンを迎えた籠球クラブは、いよいよ本格的な練習が連日卷中コートに於て開始されている。

籠球、次代の卷町を背負う青年諸氏の參加を切望する。

練習日左の通り

毎月奇数日

午後七時より九時迄

場所は

卷中学校屋内運動場

うもれ火

五月になったといってもシベリアの港ナホトカは誠に荒涼たるものであった。木の影の殆ど見えない、なだらかな山は未だ枯葉が一杯で、土の苔がぽつりぽつり見えて漸く春の息吹きを感ずる程度であった。

吹く風はまだまだ冷たくはるかなる日本海を隔てて目には見えない祖國日本からの迎えの船を今日か明日かと待つ間の明け暮れは、全く燒けただれる様な焦燥そのものであった。

併し夢は遂に現実となった、細雨蕭々と降りしきる朝、海に浮んだ緑したたる新緑の日本の姿を目のあたりに見た時、おおこれが日本だと思つた時、獨り私だけでなしにどの顔面にもどの顔面にも感激の涙が光つた。

車窓より眺める早苗田目に泌み入るような樹々の新緑、その鮮やかな印象は生涯忘れる事が出来ないであろうと思われる程強いものであつた。

それから数年、四季の移り行くあわれさを顧る暇もない只、あわただしい数年ではあつた併し何時しか初夏の候となり、日に日に緑いや増す萬物生生の姿を見る時、つややかな若葉がすがすがしき陽光を受けて一段と輝きを増す時、きまつて私は復員の日を思い出すのである。

併しまだまだ幾多の同胞が、ナホトカの港に又シベリヤの奥地に酷使されていると思う時、全く斷腸の思いである。すでに講和も締結された。獨立の式典のあげられた今日、一刻も早く彼の地の同胞に祖国の新緑を見させたいと思うのは敢て私一人ではあるまい。

（F生）

樂しい遠足

大河津分水

樂しい学校の遠足は汽車の都合で急に早くなりましたが、自分達で守るきまりを相談しあつたり、勉强の目あてをきめたり、だれが班の責任者になるか……などすつかり準備ができあがりました。

汽車は混んでいましたが、立ちつづけるのはあまり苦になりませんでした。

分水は海のように広いなあ、大きな水門がいくつもつながつている。コンクリートの堰がつづいている。こんな大きい分水はどんなにして作つたのだろうか、どうしてたくさんの人とお金をかけてこんな大工事をしたのだろうか……分水を目の前にして自分達のくらしにどんないいことがあるか考えてみました。

分水の公園で鉛筆を走らせながら、遠足の問題を研究してみました。今見て來たことを考えてみたり先生に聞いたりしました。

大河津橋は長いなあ何メートル位あるだろう、どうしたら長さが出せるか、歩幅ではかろうと、一生懸命あるいてしらべました。

世の中の一人として身につけなければならない大事なお勉强もたくさんすることが出來ました。

◇ホームで待つ時、前をのぞいたりするとあぶない

◇汽車の中で樂しさのあまり、わいわい云つているとほかのお客樣に迷惑になる

◇食べながら歩くとみばが悪い

◇汽車の出口でたつているとあぶない

◇あめの紙をすてつぱなしにすると道がきたなくなる

◇驛から早く出たいというので、柵からとびだしたりしてはいけない

◇道をばらばらに歩くとあぶない

◇晝飯を食べた後をちらかすと、係のおじさんが整理に大變だ

◇早く集らないとお友達や先生が心配する

◇面白さのあまり川岸近くにいくとあぶない

◇櫻の枝を折るときれいな公園が悪くなる

◇附添の人はいづれも自分達の危險について注意して下さる

晝食休みも、少しも休みません。ブランコ、綱とび、鬼ごつこ。高い堤防からころころころがつています。

遠足はほんとに樂しさでいつぱいでした。いろいろ考えてみました。自分達で実際やつてみて、いろいろのしつけを身につけることも出來ました。

×

子供達が見たり、聞いたり、調べたりして來た眞劍な勉强はまだまだつづきます。この有意義な学習に御協力下さいました父兄附添の各位に厚く御礼申し上げます。

（卷小学校高橋弘）

隨想

昨年アメリカで講和條約が調印されたが、ハンコを捺すのでなく、全權によつて署名されたのに調印とは眞にオカシナ言葉であるにもかかわらず、なんの不自然もなく調印といつている。

古來我が國の役所では五ッ六ッと肩のはるような重々しいハンコがなければ書類でないという先入觀があるので署名では何となく物足らなく考えているのであろうか。

今回小、中学校の卒業式にお招きをうけて、末席を汚がさせていただいたが、中学校の卒業式で感じたことは、私達の卒業式には賞品がなければ證書の値が下がると思う程、盛りたくさんな賞品がついたのに（優等生）證書だけの卒業式で人ごとながら物さびしさを感じたのは私一人だけであつたろうか、また卒業證書一枚あれば就職する時のパス券とも考えていた當時を振り返つて『学あれど夕の煙たたず』一抹のさびしさを禁じえない。だがそれだけ社会における生存競走の激しさを思う時一日としてペンペンと暮している事の出來ない私を見いだす。

十區　槇　徒子

英語の学び始め

卷中學校　高杉彌三八

新学年を迎え嬉々として登校する中学生の姿　曖かな春の光をあびて皆んな喜びに充ちあふれている。特に小学校を卒業したばかりの一年生にとつては英語と云う新しい学科を学ぶことに依つて中学生としての意識と誇りとをもつていると云つても敢て過言ではあるまい

それで『英語は面白いか』と聞くと『迚も面白い』と答える未知の外國語の世界に飛び込んだ喜びと興味は我々の想像も及ばぬ程に大きいものがある。所が二、三ヶ月經過すると『どうも六ケ敷い。解らない、さつぱり面白くない』と言出す。

此れには幾多の理由もあるし、又我々指導者の反省も必要なんだが何としても入学してから七月迄の一学期間が非常に大切で將来英語が出來るか否か実に此の期間で勝負が決るのである。

本校の一年生は『英語に親しみつつ基礎学力を身につけよう』と云う目標をかかげ、專ら此れに對して特別な工夫と最善の努力を払つている。此の時期にしつかりと基礎をつくつておかないと上級学年は勿論、高等学校へ進学後も基礎学力の不足がたたり、取り返しのつかない結果となるのである。

一年生の英語学習はその日に学んだ事を完全に復習し、覺える習慣をつける事である。聞えて解り、話せ、読んで而も書ける四つの技術を反覆練習する事に依つてのみ基礎学力がつくのである。辞書も不要予習もいらない只管聲を出して読み練習する事以外に何もあり得ない。

生徒が家に歸つて此れを実行しているかどうか父兄の方々から絶えず觀察して頂きたい。そして彼等の英語学習のスタートを誤らしむる事なく踏み出させたいものである。

英語教育の目的は世界の風俗習慣を理解し、文化に接し、個人としても、社会の一員としてもより高き豊な教養を身につける事にあると思う。我々中学校の外国語（英語）科に職を奉ずる者、皆樣の大切なお子さんをお預りした以上は萬難を排して此の目的達成のため最善を盡さなければならないことを痛感する次第である。

【拔書・聞書・覺書】天正十二年の卷

町

御書謹而奉拜見候……（中略）……謹而小國黑瀧之證人御当地へ被差越候小国家中之證人三人請取申候黑瀧家中之證人者定而今明日本に可罷越候兩城之御仕置可然率存候木場之義者山吉一悠齊證人御当地に差置申候貫木之地之事者小国家中より相抱候間小国可たへ手堅被仰付御尤に候郷内之儀者是も御当地に證人指置申候下郡如斯候仍白河の義……（中略）……如此之趣御披露所仰候恐惶謹言

卯月十六日

甘糟近江守

長重花押

泉沢河内守殿

（越佐史料六）

（注）謙信没後所謂『お館の乱』以来越後の國は『國中いこいこ』狀体になり、反景勝の新発田は新潟に築城景勝方また木場に築城、お互に攻めたり攻められたりしていた。その頃三條城主の甘糟長重一景勝に下越の狀勢を報告した。天正十二年四日十六日の手紙の一節文中、小国とは岩室天神山の城主小國家、黑瀧とは山岸一家の城木場には菱沼友重が本丸に山吉是長が二の丸にいて新発田重家に對していた。

尙もし、和納から卷へ攻めて來て赤サビ土堤の入口あたりで激戰があつたという話が本当ならやはりこの時代のことではなかろうか。

天正八年六月九日の景勝が山岸言門少輔に与えた手紙の一節に『小國石見守加勢之儀申越に付而先日安部ニ介ニ人數相添差越候然者ニ介と令談合和納へ及調儀ニ之輪迄取破巢城計成之引除く由簡要候……（後略）……（越佐史料六）というのがある。

（齋藤）

◇訂正

先号四面の卷中本間先生より寄せられた『図書館のことども』中『興へよ、さらば求めむ』の自主的教育へと、とあるを『与へよさらば求む』？の教育より『求めよ、さらば与へられむ』の自主的教育へとの誤りであります。編集人の不注意により大変御迷惑をかけました事を深くお詫び申し上げます。